

# 世界の海洋底の表層堆積物・マンガン団塊分布図

ラモント・ドハティ地学研究所から出版さる

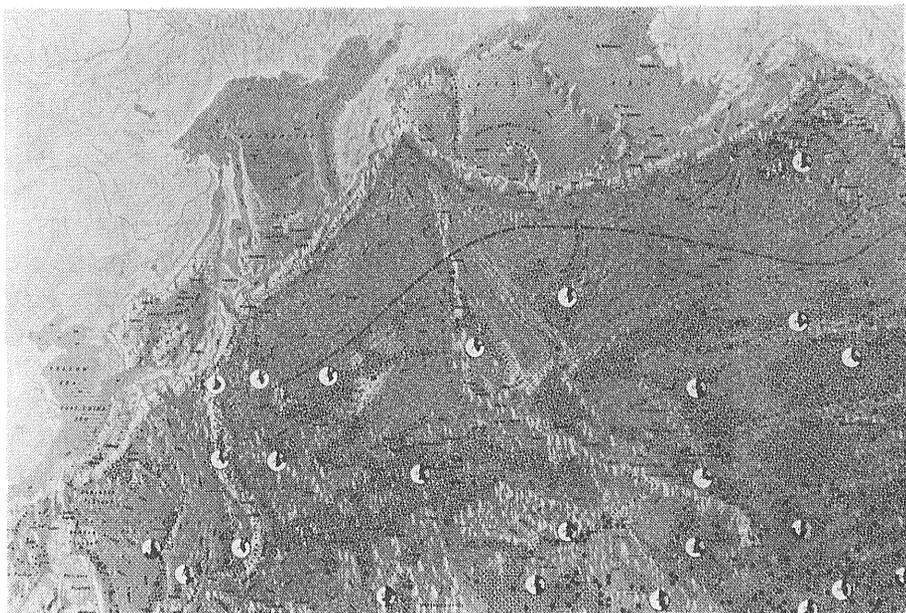
盛 谷 智 之 (海洋地質部)

太平洋や世界の海洋底のユニークな地形や地質の総合図をこれまでいくつも作成してきたラモント・ドハティ地学研究所から 最近また新しい「世界の海洋底の表層堆積物・マンガン団塊分布図」が出版された。(第1図) 原図名は Ocean Floor Sediment and Polymetallic Nodules, by Martine Dreyfus RAWSON and William B. F. RYAN, 1978 で アメリカ合衆国国務省 地理部の援助を受けて作成されたものである。周知のように 広大な世界の海洋底に対し その調査研究データはなお非常に稀薄であり 詳細で信頼できる広域的地質図の作成は困難な状況にある。しかし稀薄であるにせよ従来データの総合されたことは 今後の科学的研究への貴重な参考資料として意義が大きく また とくに国連第三次海洋法会議の重要テーマの一つである深海底マンガン団塊資源開発の討議への基礎的データの提供ということもあるのではないかと推測される。いずれにせよ広範な関係者に役立つ図と思われる。

さて この図は縮尺 1 : 23, 230, 300 で、縦 110cm 横 190cm の大版のものである。そして内容的には海底地

形(レリーフ) 表層堆積物 マンガン団塊の三つが一枚の図に多色刷りで いろいろ工夫して表現されている。このように多様な情報をもり込んだため 図が複雑で一見して明瞭さを欠く印象を与えるのはやむを得まい。反面 よく見ればさまざまな情報が読みとれる味わいのある図となっている。

まず 海底地形は 故 Bruce C. HEEZEN と Marie THARP による有名な太平洋 大西洋 インド洋などの各海底地形図が一つの図になった World Ocean Floor Panorama, 1977 が基図となり 薄い色のレリーフで示され また各所に水深の数値表示がある。表層堆積物は 次のように分類され 模様と色で示されている: 陸源(氷河漂石 礫 砂 シルト シルト質泥) 生物源の石灰質(軟泥 泥灰土 粘土)と珪質(珪藻軟泥 放射虫軟泥 珪藻質泥 放射虫質泥) 自生源(マンガン団塊 遠洋性粘土)および基盤岩(玄武岩)。マンガン団塊は 従来の諸図が単なる試料採取地点図あるいは分布概念図であったのと異なり 自生堆積物として 陸源あるいは生物源堆積物の分布域上に 地形・地質構



第1図  
世界の海洋底の表層堆積物・マンガン団塊分布図の一部